



テーマ「子供の成長を楽しむ ～朝の会のスピーチ～」

1 はじめに

- ・「学級開き」が大切だというのが、なぜか？

子供が教師を認めてくれるかどうか、いかに「先生」と思ってくれるかが大事。

- ・学校・学級とはどんなところか？

- 失敗が許される時間と空間
- 楽しい仲間
- 信頼できる先生
- おいしい給食（おまけ）

子供から見た学校・園



- ・「信頼できる先生」の3条件とは、

- 自分のことを分かってくれる先生。大切にしてくれる先生
- みんな同じように対応してくれる先生
- 自分たちをよりよい方向に導いてくれる先生

子供にとってよい先生

- ・「自分のことを分かってくれる先生。大切にしてくれる先生」と思ってもらえることが、学級づくりの鍵。

- ・子供は、教師のことを真似する。子供は敏感である。

- ・「この先生といい1年にできそう」と思える「学級開き」が大事である。

2 朝の会から学級づくりを考える

- ・なぜ、「朝の会」なのか？

- 子供が朝の会のスピーチで何を話すかは、教師も子供も知らない。

ねらいはない。

教師と子供が、「分かれようとして」探りながら聴くところに意味がある。

聴く構えを変える。

- (1) 発表者は「当番」ではなく、「みんなに話したい人」

- × 形としての話し方の練習ではだめ。

- 自分を分かってもらうことの喜び。

（「当番」では、分かかってほしいことがあるか疑わしい。）

- ・教師「話してくれる人？（挙手）」→「指名」

→「今日は、〇〇君のお話を聞きます。〇〇君は、

みんなに『どんな気持ち』を分かかってほしいのかな」

これまで挙手してた子供は、「話す→聴く」への頭の切り替え

※ 1日に話題を取り上げるのは、一人だけ



(2) 話し方の指導

- ・まず、どんな気持ちを伝えたいか（結論）を話す。

（低学年は4つの顔のイラストカードから選ぶ）

※ 将来的には、顔イラストカードがなくても気持ちを話せるようにしたい。

- ・次に、なぜそのカードを選んだかを話す。

（伝えたい思いを分かってもらうための事実）

- ・話し手は、分かっただけのことがあるから話す。

→ 聴き手は、話し手がどんな気持ちを分かっただけのことを考えながら聴く。

（話し手の懐に入って聴くのであり、自分が質問したいことを探しながらか聴くのではない）

(3) （聴いた直後、最初の発問）

「話し手は、みんなにどんな気持ちを分かっただけだったのかな？」

→ （聴き手）「〇〇さんは、～がうれしかったと思います。」

（指導）できるだけ膨らませて

「もう少し、自分の言葉で言えるかな」

「まだ、別の言葉でいえるかな」

※ 時間をかけて多様な聴き方があることを示す。

- ・話し手は、みんなが自分のことを真剣に考えてくれることがうれしい。
自分の本当の思いを分かっただけになる。
- ・話し手・聴き手 本当の話し手の気持ちは？知りたくなる

鍵：主語が「話し手（〇〇さんは～）」の発言

（この時間が大切。これまでの授業での話合いで、欠落していた部分）

※まずは、しっかり聴く。

話した子が、「ああ、分かっただけもらった」という状況をつくる

→ 一人一人の存在を認め合えるクラスになる



(4) （第2の発問）

「〇〇君の気持ちは分かったね。今度は、みんなに聞くよ。〇〇君の話を聞いて、あなたは今、何を思いましたか？」

- ・この発問が難しい。
 - × 話した内容だけ。
 - 話してくれた発言者の姿も含めて。
- ・何を考えたか？子供たちの発言の分類
 - 話し手の姿への評価（～した〇〇さんはすごい など）
 - 他者を価値のある存在として尊重した姿

(話した内容だけでなく、話し手の姿そのものの評価)

例：「〇〇さん、2点も頑張って入れて、(私は) 〇〇さんをすごいと思いました」

- 話し手への今後のアドバイス
- 話し手の考えとは異なる自分の考え方の紹介
→ 話の節に

3 授業も同じ！！子供は教師のねらいを知らない

- (1) 教師に忖度する子供を育てるの？
- (2) それなら、教師のねらいを知らせれば・・・
- (3) 「主体的な子供」を育てるには・・・

まず、子供の心もちを受け止める

これからの教育の質的変革への可能性

- ・「個別最適な学び」の上に立つ「協働的な学び」
(仲間の素敵さ → 自分の振り返り)
- ・不登校・いじめの撲滅
(一人一人の存在の認め合い、あったかい教室)

学級づくりは手段ではなく、目的では？

★ しっかり聴くこと

相手を分かろうとすること が全ての学びの基本
一人一人を認め合える学級づくりへ

Q1 「やはり、いろいろな子供に話してほしいが」

A 教師は、慌てず、ゆっくりと構えること。

例えば、教師に話しかけてくる子供の話を捉えて、朝の会で話せるように促す。
(話し方を教え、自信を付ける)

Q2 自分のことを言いたがる子供には？

A ダメと言ってはいけない。話がそこにずれていかにしながら、「分かったよ。それであなたは〇〇さんのことをどう思うの？」と、ずれそうな話を戻す。

Q3 低学年で聴き合うためのポイントは？

A 顔イラストカードの利用。

園でもできる。外で、実物を見ながら。
高学年は、結論から言える子供に。



「顔イラストカード」

中学生も同じ。内容だけではなく、発言した行為を認める。

Q4 テーマの充実への手立ては？

A 家の話題でも何でもよい。内容で関わらせようとするダメ。
その人を理解することから、自分の生きざまを考えることを大切に。